

# 聖なる銀 アジアの装身具 展

*Sacred Silver - - Personal Ornament in Asia*



写真1：中央アジア/トルクメニスタンの「アシク」または「ゴジャ」と呼ばれる背飾り。ハート型の飾り板を連結したもの。砂漠を歩いている時に、無防備な背後から襲ってくる病気や邪視から身を守るために衣服に縫いつけられた。 W230×H105 撮影：熊谷順

## 巡回展会期

大阪展 INAX ギャラリー大阪

会期：2011年12月8日(木)～2012年2月23日(木)

休館日：水曜日、12/28 - 1/4

名古屋展 INAX ギャラリー名古屋

会期：2012年3月9日(金)～5月24日(木)

休館日：水曜日、5/20

東京展 LIXIL ギャラリー(東京)

会期：2012年6月7日(木)～8月25日(土)

休館日：日祝日、夏期休暇

\*2012年3月1日付でINAXギャラリーは「LIXILギャラリー」と名称変更いたしました。

## 開催概要

タイトル：聖なる銀 アジアの装身具

英語タイトル：Sacred Silver--Personal Ornament in Asia

企画：LIXILギャラリー企画委員会

制作：株式会社LIXIL

協力：日本宝飾クラフト学院

入場料：無料

開場時間： 10：00～17：00（大阪展、名古屋展）、10：00～18：00（東京展）

WEB サイト：<http://inax.lixil.co.jp/culture/>

## 聖なる銀 アジアの装身具 展

古来よりその輝きは月光にも喩えられる銀。アジアにおいて銀は普遍的な素材として、また強い反射が邪悪なものをはね返す金属として尊ばれ、装身具に多用されてきました。とりわけ数百の民族が暮らすアジアでは、装身具は自身を飾るという目的以外に、民族のアイデンティティを示す重要なアイテムとして人々の暮らしの中で受け継がれてきました。それ故に存在感のある大胆な造形や手の込んだ細工など、ヨーロッパ以上に種類も豊富で固有なデザインが存在します。また装身具に込められた様々な思いをひも解くと、生命と直結した聖なるものとしての意義や身体装飾への情熱までも知ることができます。

LIXIL ギャラリーでは、近・現代のアジアの代表的な装身具270点 をご覧いただき、様々な歴史や民族が交錯するアジア大陸ならではの、地域の比較や特徴などを披露しながらその魅力に迫ります。

会場では、アジア全域の地図をガイドに、東アジア・東南アジア・中央アジア・南アジア・西アジアの5エリアを巡りながら、あらゆる体の部分に応じた各地域の様々な装身具を個々に堪能していただきます。銀細工の細かさや迫力ある造形美を間近に感じることができるでしょう。

東アジア地域では、龍や鳳凰、牡丹や桃、蝶や蝙蝠<sup>こうもり</sup>など吉祥文様が多く、これらの装飾は邪を払い招福を招くものとして装身具に用いられ身に付けられてきました。また中国のミャオ族などの少数民族には、今なお銀文化の伝統が生きており、祭りの時など驚くほど多様な銀の装身具が登場することでも有名です。一方、中央アジア地域のトルクメニスタンでは、紅玉髓（カーネリアン）をはめ込んだ大ぶりの装身具を身に付けることで知られています。可憐なハート型のアシクと呼ばれる背飾りは、お守りとして呪術的な意味があり、背後から病気や邪視に襲われないように背中に飾られました。赤い石が用いられるのは、赤色には怪我や出血から身を守り、視力を強める力があると信じられていたからです。南アジアを代表するインドを見てみると、装身具に深い愛着を示し、老若男女を問わず頭の方からつま先まで華麗な装身具で全身を飾ります。装身具をさす「ガハナー」は「抵挡」を意味する言葉でもあり、このエリアの遊牧民や移動生活をする民族も同様に、財産としての役割も大きく肌身離さず身につける文化が発達しました。その他、西アジアでは経典を入れる護符の役割を持つ首飾りや、突起の鋭い武器のような腕飾りがあり、東南アジアでは舞踊や儀礼のための装身具として音を奏でる指輪や腕飾りなど、地域独特のデザインが見受けられます。さらに写真パネルでは、当時の民族衣装と合わせた装飾法や独特の着用法など、どのように身に付けられているのかが分かる貴重な古写真と現代写真を披露します。

現在では、アジア全体をみても生活様式が変化し、伝統的な装身具も姿を消しつつあります。民族装身具は、失われる地域の文化を今に伝える民族の誇りであり、部族の証として、普遍的な存在と言えるでしょう。力強く生命力溢れる銀の造形美をじっくり鑑賞できる希少な機会です。是非足をお運びください。

## リリース用画像

使用希望の写真は全てウェブサイトのプレスリリースよりダウンロードしてご利用ください  
http://inax.lixil.co.jp/gallery/exhibition/detail/d\_002005.html

写真 2



写真 3



写真 4



写真 2：東アジア / 中国少数民族ミャオ族の頭飾り。咲き誇る花飾りの中に縁起がいいとされる動物の形象が見られる。  
W245 × D90 × H300

写真 3：東アジア / 中国の南京錠型首飾り。中国では、錠前は長寿と繁栄のシンボルで、首飾りなどによく使われる。表面にはめでたさを表す図柄が精緻に打ち出されている。  
W215 × D20 × H395

写真 4：西アジア / オマーンの「カンジャール」と呼ばれる儀礼用短刀。実際に使うものではなく、男性の誇りを表す儀礼用の腰飾り。W280 × H220

写真 5



写真 6



写真 5：東南アジア / インドネシアバタク族の儀礼用指輪。金メッキが施され、より線と粒銀細工で加飾している。振ると鈴のような音がでる。25

写真 6：東アジア / チベットの首飾り。「ガウ」と呼ばれるお守りペンダント。裏が開き中に経典やお守りを入れる。サンゴとトルコ石はチベット近辺で人気の高い石。  
W100 × D30 × H90

写真 7



写真 7：南アジア / インドの耳飾り。

40

所蔵すべて：日本宝飾クラフト学院

撮影すべて：熊谷順

## 新刊 LIXIL ブックレットのご案内

### LIXIL BOOKLET 『聖なる銀 アジアの装身具』発売予定

(78<sup>ページ</sup> - 7<sup>ページ</sup> 内加 - 48<sup>ページ</sup> - 7<sup>ページ</sup>、税込価格 1,575 円)

#### 構成案

〔図版論考〕「銀を纏う人々」露木宏(日本宝飾クラフト学院理事長) 撮影：高木由利子 / 「銀の歴史と技術」村上隆(京都国立博物館 保存修理指導室長) 〔コラム〕銀細工の技法 飯野一朗(東京藝術大学工芸科教授)

〔図版構成 1〕人々の装身具 近・現代の民族写真より 〔論考〕「アジアの風土と装身具」道明三保子(文化学園大学名誉教授) / イラスト装身具地図(松原三千男/イラストレーター)

〔図版構成 2〕東アジア、東南アジア、南アジア、中央アジア、西アジアの装身具

撮影：熊谷順

〔各エリアコラム〕「手技の継承 中国・ミャオ族の装身具」原典生(金工作家)、「舞踊にみる東南アジアの多様性」芳賀日向(写真家)、「ネパール・ブータンの装身具」向後紀代美(装身具研究家)、「中央アジアの装身具 タジキスタン人の装飾」加藤定子(服飾研究家)、「銀の広がり 発信地としての西アジア」露木宏(上述)

〔論考〕「月光を纏う 祈りと命の装身具」鶴岡真弓(美術デザイン文明史家・多摩美術大学教授)

装丁・・・A D 祖父江慎、デザイン福島よし恵(コズフィッシュ)

- 本件に関するお問い合わせ -

大阪 担当:高橋

TEL:06-6733-1790 FAX:06-6733-1791

〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町 4-1-3 伊藤忠ビル 1F LIXIL 大阪水まわりショールーム内

名古屋 担当:大原

TEL:052-201-1716 FAX:052-201-1730

〒460-0003 名古屋市中区錦 1-16-20 LIXIL 名古屋ショールーム B1

東京 担当:笥

TEL:03-5250-6530 FAX:052-201-1730

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-6-18 LIXIL:GINZA 3F